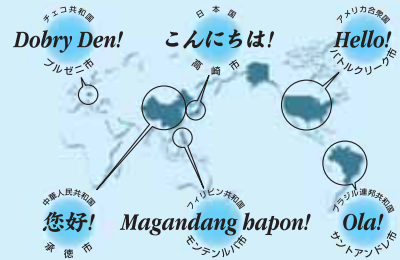


Touching the World

高崎市国際交流協会会報 No.37
2008年12月



多文化共生研究グループ報告書

多文化共生研究グループ（会員有志11人）は、本年3月から9月までの間、毎月1回集まり、高崎市における「多文化共生」の在り方や協会の役割について研究してきた内容を報告書にまとめました。

「多文化共生」は、今までの国際交流や外国人支援を超える概念です。在住外国人の増加と定住化を背景に、外国人も地域社会の一員として、安心して暮らし、地域づくりに参画できるよう、生活環境や制度を整備し、日本人の意識改革も進めていかなければならないとの認識のもと、国、都道府県、市区町村、市民団体など様々なレベルで、「多文化共生社会」の構築に向けた取り組みが行われつつあります。

協会設立15周年記念シンポジウム「交流からその先へ」から2年。その先への具体的な取り組みがようやく始まろうとしています。



県多文化共生支援室の方を講師に招いての研究会

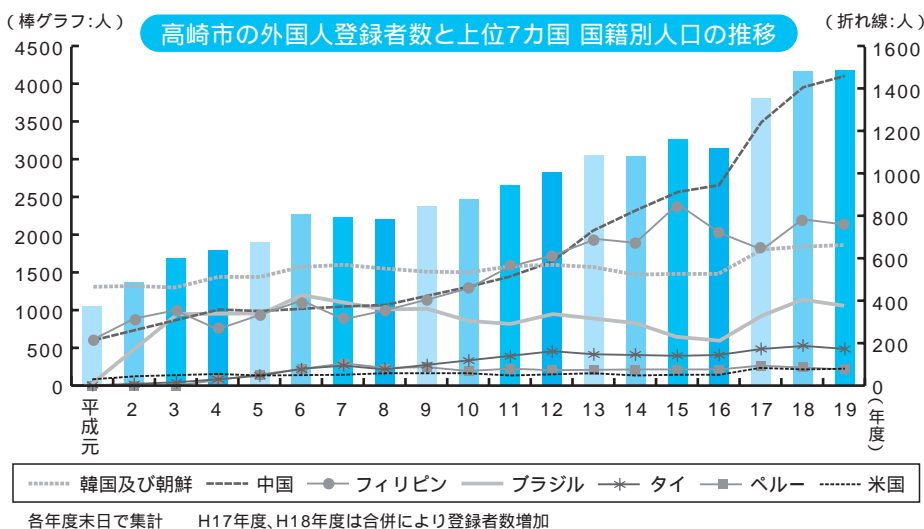


副会長に報告書を提出

報告書の概要

1.コミュニケーション支援	地域の情報やサービスの多言語化を推進するほか、外国人住民の日本語や日本社会の学習を支援する。
2.生活支援	外国にルーツをもつ子どもの教育、外国語が話せる医療機関の情報提供、防災情報の提供や訓練等を中心に、外国人住民が安心して生活できる環境を整備する。
3.多文化共生社会の地域づくり	外国人住民を対象とした施策だけでなく、日本人住民への啓発などを行い、地域社会の意識改革を進めるほか、外国人住民が地域社会の一員として、地域づくりに参画できる仕組みを作る。
4.人材育成	多文化共生について学ぶ機会の提供や、国際交流協会に多文化共生に関する部会を設置するなどし、多文化共生を牽引する人材を育成する。

「多文化共生」の総務省多文化共生に関する研究会による定義
国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の一員として、その個性と能力を発揮し、共に生きること。



Index

- 多文化共生研究グループ報告書
- Topics
- 部外活動ファイル
- 日本人ブラジル移民100周年記念事業
- 合併地域周知支援事業
- People People
- Information

第25回交換学生事業



姉妹都市・米国バトルクリーク市と毎年行っている教員と高校生4人の相互ホームステイプログラムが、本年は7月26日～8月17日まで（米国派遣は8月4日～17日）実施されました。両市の参加者は、楽しい思い出と大切な友達を作り、有意義な夏休みを過ごしました。

地球市民の日2008



10月26日、ハローフォーラムで地球市民の日2008が開催され、高崎市国際交流協会は姉妹都市公園の清掃で参加しました。公園清掃の参加者は88人。子どもから大人そして在住外国人の方々が、協力の呼びかけに応じて集まりました。今年は公園のゴミ拾いに加え、色とりどりのパンジーを植えました。

「地球市民の日」

2000年に高崎市で行われた高崎2000年環境会議における第3回高崎サミットの席上で、10月27日を姉妹友好都市共通の記念日「地球市民の日」と定め、環境について考え、行動する事業を各市で実施することが決まった。高崎市は毎年、直近の日曜日に企業・市民団体・教育・行政が協力して、記念事業を行っている。

高崎市の姉妹友好都市

アメリカ ・バトルクリーク市
 ブラジル ・サントアンドレ市
 中国 ・承德市
 チェコ ・ブルゼニ市
 フィリピン ・モンテンルパ市

子どもの国際理解に協力

さわらび幼稚園



外国人親子がさわらび幼稚園を訪問し、日本の幼稚園の様子を見学すると共に、園児と交流しました。（7月16日、9月10日、10月9日）

京ヶ島保育所



国際交流員のミーガン・エイトケンヘッドさん（オーストラリア）が京ヶ島保育所を訪問し、歌やゲームで園児と交流しました。（10月16日）

長野小学校



長野小学校5年生の国際理解授業に協力し、清水春香さん（韓国）、フェルナンド・スニルさん（スリランカ）、ジーナ・アミーゴさん（ガーナ）、ミーガン・エイトケンヘッドさん（国際交流員・オーストラリア）をゲストティーチャーとして派遣しました。（9月5日）

部会活動ファイル

都市友好部会

デバドロアルファ劇団

パントマイム公演と交流会

9月20日、箕郷文化会館で、姉妹都市チェコ・ブルゼニ市のデバドロアルファ劇団によるパントマイム劇の公演が行われました。演目は「不思議なローライ島」。妖精と2人の船乗りの恋物語を、役者が身振り手振りによるパントマイムで演じました。会場は、ほぼ満員のお客様で埋め尽くされました。幕が開くと、所狭しと舞台や客席を駆け巡る熱のこもった演技に、みな圧倒されていました。約1時間の公演は、拍手喝采のもと終演となりました。

終演後、会場前の広場には、お茶とチェコのチョコレートやラムネなどのお菓子が用意され、団員の方との交流会が行われました。9月とは思えぬ強い日差しの中で、マリオネットの動かし方などを丁寧に教えてもらいました。参加者からはいろいろな質問があり、予定より時間を超過して交流会は終わりました。



マリオネットに興味津々の子どもたち

デバドロアルファ劇団高崎公演日程

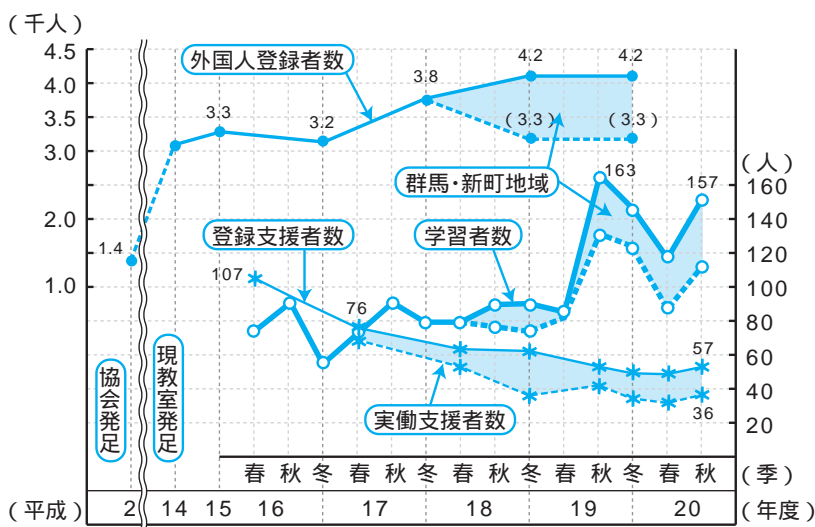
9月19・22日 高崎市文化会館
 9月20日 箕郷文化会館(国際交流協会)
 9月21日 新町文化ホール(高崎子ども劇場)

コミュニケーション支援部会

日本語教室

春と秋の日本語教室が3地区8教室で開催され、276人の日本語を母語としない人が学びに来ました。また、支援者のために、外部から講師を迎え、最近の教材、漢字の教え方、及び支援者の役割等をテーマとした研修会(5回)や大泉町立南小学校日本語学級の視察を実施しました。日本語教室では、他部会の事業も学習者に分かり易く紹介して、積極的な参加を促しています。

高崎市の外国人登録者数、当協会日本語教室の学習者数及び当部会の支援者数の推移をみると図示の通りです。学習者数が増加する一方、支援者数は減少傾向にあります。当面、支援者の才覚と柔軟かつ臨機応変な努力で、様々なニーズに応えていくこととなりますが、多様な支援者の確保、学習者の日本語レベルに適した使い易い教材の整備、さらによりよい教室運営方法などの課題に取り組むことが求められています。



ペアで会話練習(中央公民館土曜日コース)



日本語の教え方を学ぶ支援者



大泉町立南小学校日本語学級を視察

部会活動ファイル

事業部会

Hot Summer Night

熱い夏の夜に

7月20日の蒸し暑い夏の夕べに、高崎市労使会館で、ホット・サマー・ナイトが開かれました。日本文化である七夕まつりにちなんで、223人の参加者全員が七夕飾りの短冊に「願い」を書き、笹に取り付けたところで、ミラーボールや色鮮やかな豆電球が点滅するステージ上でラテン・ミュージック・バンドのリベラシオンの演奏が始まりました。ラテンダンスのインストラクターによるサルサやパチャータのミニレッスンには多数の人が参加し、彼らの熱と興奮で会場は「暑い夜」となりました。ケータリングのイタリア料理を食べたり、飲んだり、しゃべったり、踊ったりするうちに夜もふけていき、パーティーは盛り上がりました。バンドの奏でるラストナンバーの後は、会場からアンコールの声。楽しく盛大にパーティーが閉じました。



インストラクターの踊りに沸く会場

オージーBBQ

食べて・遊んで・オーストラリア体験

9月28日、観音山ファミリーパークで、オージーBBQが開催され、天気にも恵まれ、大勢の参加がありました。今回はカンガルーの肉も使いました。ほとんどの人が初めて口にするとカンガルー肉でしたが大好評で、すべて参加者のお腹の中に消えました。バーベキューをはさんでブーメランとクリケットの体験もしました。ブーメラン協会の方の指導のもと、牛乳パックで作ったブーメランを飛ばしました。上手に飛ばして自分の所に戻って来る人、「あれ・・・」と首をひねる人など、参加者は楽しい1日を過ごしました。



バーベキューを前にハイチーズ



ブーメラン



クリケット

秋の鎌倉バスツアー

大仏、お寺、神社、遊園地と見所満載



大仏の大きさにびっくり



長谷寺にて

11月16日、恒例のバスツアーが行われました。予想を上回る申し込みがあり、急きょバス1台を追加し、大型バス3台・133人での実施となりました。外国の人にも人気で、51人も参加しました。当日は、あいにくの雨でしたが、鎌倉大仏で有名な高德院、花のお寺として有名な長谷寺、鶴岡八幡宮を観光し、古都鎌倉を堪能した後、八景島シーパラダイスへ行き、自由にアトラクションを楽しみました。バスの中など、参加者間の会話も弾み、メール交換する姿もみられ、交流が深まりました。次回バスツアーの早い企画を期待する声も聞かれ、大好評の企画でした。

部会活動ファイル

青少年育成部会

ジュニアインターナショナルクラブ（JIC）

JICでは、小学4年生～中学生の児童生徒約50人が、定期的に集まって、国際理解を深めています。本年度は「異文化を知って、自分を知ろう」というテーマのもとに、7つの事業を計画し、実施しています。

講演会「みんなのレインボー群馬 多文化共生への願い」

カイラン・ミックメーヒル教授を招いて

7月20日、中央公民館集会ホールで、入会説明会とあわせて講演会が開催されました。JICメンバーと保護者合わせて100人が、大東文化大学のカイラン・ミックメーヒル教授による「みんなのレインボー群馬 多文化共生への願い」の講演を聞きました。異文化のルーツを持つ子どもたちの問題についてグループで話し合ったり、解決方法を考えたりしながら、多文化共生の課題に取り組みました。ミックメーヒル教授の話の中で、「外人」という言葉について考えました。外国の人を表す、ただの呼び方だと思っている人が多いのですが、外国人にとっては区別されているように見え、傷付くこともあるようです。こういった視点から相手の気持ちを考えながら行動する大切さを改めて学びました。



子どもたちに問いかけるミックメーヒル教授

雨にも負けず

スタディーキャンプ

8月15、16日（1泊2日）、倉淵のはまゆう山荘で、スタディーキャンプが行われました。雨の洗礼を受けましたが、予定していたプログラムは全て実施されました。テーマは「環境とブラジル文化」。1日目は、県国際課の太田祥一さんから「日本人ブラジル移民の歴史」の話^{しやういつくん}を聞いたり、蔣雄軍さん^{しやうけい むら}から「中国湖南省蔣家村の桜の植樹プロジェクト」の話^{しやうけい むら}を聞いた後、坂口ルニーさん（ネパール）、ペイショット法子さん（ブラジル）、フェルナンド・スニルさん家族（スリランカ）ら外国人ゲストと交流をしました。夜には諦めていたキャンプファイヤーや花火も楽しむことができました。2日目は、わらび平で焼き立てピザの朝食を食べた後、高崎野鳥の会の割田兼弘さんから「倉淵の自然と野鳥」の話^{しやうけい むら}を聞き、エコパークを見学して水と環境について学びました。



中国の環境や植林プロジェクトについて学習する子どもたち

ドミニカ料理教室

11月9日、並榎中学校で、ドミニカ料理とサルサダンスのレッスンが行われました。講師は、ドミニカ出身で高崎在住の亀田隆一さん。インゲン豆を煮込んで、ご飯の上にかけて食べる'habichuelas guisadas'やポテトサラダなど、家でも簡単に作れる料理を4品作りました。ジャガイモと卵を同じ鍋で一緒に茹でてしまう手軽さや、スライスしたアボカドを好きな形に飾る楽しさから、ポテトサラダが好評でした。

ドミニカ料理を堪能した後は、最近日本でも人気のサルサダンスのレッスンが行われました。2人1組になって手をつなぎ、難しいステップに悪戦苦闘しながら、サルサダンス初体験は終了しました。習ったダンスは3月開催予定の「キッズ・ディスコ」で披露される予定です。



グループごと協力して調理

各部会が来年度事業の計画に入る時期となりました。
広く会員の皆さまのご意見・ご助言もお待ちしております。

日本人ブラジル移民100周年記念事業

本年が日本人ブラジル移民100周年にあたることから、ブラジルにちなんだ事業が行われました。

ブラジル日本移民百周年記念写真展

新世界に渡った日本人

4月16日～22日、イオンモール高崎2階イオンホールで、100年にわたる日本人ブラジル移民の歴史を紹介する写真展が、高崎市と独立行政法人国際協力機構、ブラジル日本移民百周年記念協会、群馬県との共催で開催されました。会場には、サンパウロにあるブラジル日本移民資料館や、ブラジル各地の日系団体から収集した貴重な写真資料が展示されました。



ジュニアインターナショナルクラブ(JIC)

ブラジル人学校訪問

JICは、9月21日、前橋総社町にあるブラジル人学校を訪問しました。学校に到着してすぐに、双方の子ども達は、ポルトガル語・日本語を交えて自己紹介をしました。学校では、教室を見学したり、ブラジルの昔話にちなんだ人形を作ったり、木の絵を描いたりして交流しました。木の絵を描くことになったのは、9月21日がブラジルでは「木の日」という記念日だったからです。また、昼食は、ブラジル人学校の先生と保護者が用意してくださった「シュハスコ」というブラジル風バーベキューをいただきました。午後は一緒にバスで高崎ツアーに出かけ、市役所21階展望ロビー、観音山、少年科学館を見学しました。言葉での交流が難しいため、最初は互いに緊張している様子でしたが、高崎ツアーの頃には、笑顔で手をつないでいる姿も見られ、互いに有意義な時間を過ごすことができました。



高崎市国際交流協会

シネマテークたかさき協働企画

映画「ブラジルから来たおじいちゃん」の上映

シネマテークたかさき副支配人 小林栄子

映画「ブラジルから来たおじいちゃん」は、サンパウロ在住92歳のブラジル移民一世の紺野堅一さんが、日本に暮らす二世、三世を訪ねる旅のドキュメンタリー作品です。群馬県は1万7千人のブラジル人が暮らす全国でも有数の「集住県」であり、映画を通して、日常化している「国際化」を改めて考えるきっかけになっていただけたらという思いを込めて上映いたしました。



シネマテークたかさき内にJICとブラジル人学校(前橋)の子どもたちの絵を展示

ご覧いただいた方から、「紺野さんの生き様に勇気もらった」という声を多数いただきました。それは、年の差も国境も人種もなんなく飛び越え、紺野さんの物事に対する「寛容さ」が、ブラジルで成功した秘訣であること、この彼の生き様に国際化を超えて、地球で暮らすひとりの人間としての生きる姿がそこにあったからではないかと思われま。国際交流の第一歩は「寛容」から始まるのではないかと気づかされた作品でした。「幸せとは何事にも満足すること」パイオニアの言葉にはもの凄い説得力がありました。

ブラジル料理教室

11月15日、並榎中学校で、ルシアナさんを講師に、ブラジル料理教室が開かれました。その日のメニューからブラジルの代表的な料理の作り方を紹介します。

Feijao

フェイジョン

材料(4~5人分)
カリオカ豆 200g
玉ねぎ 1/2個
ニンニク 2かけ
ロリエ 1枚
ビーフコンソメ 1個
サラダ油

作り方

豆はきれいに洗って、約3倍の水にひたします。
豆がふやけたら、水を捨て、圧力鍋に豆と約3倍の水を入れて、火にかけて、柔らかくなるまで煮ます。
圧力鍋がない場合は、一晩水にひたした豆を使う。
フライパンにサラダ油をひき、みじん切りにしたニンニク、玉ねぎを炒めます。
の鍋に とロリエ、ビーフコンソメを入れ、10分ほど煮込んで、できあがりです。



ブラジル移民の歴史

1907年(明治40年)、日本人を対象とした新移民法がブラジルで成立し、この年から3年間に3千人の移民をブラジルに導入することになりました。第1回のブラジル移民は、1908年(明治41年)。移民船「笠戸丸」で約8百人の日本人がブラジルに渡りました。最盛期の1933年頃には、年間2万人以上が参加し、1993年に制度が廃止されるまで、約25万人が移住したといわれています。現在約150万人の日系人がブラジルに住んでいると推定されています。

合併地域周知支援事業

群馬地域



8月10日、上毛野はにわの里公園で開催された「はにわの里まつり」で、フルーツアラカルトを提供しました。フルーツアラカルトは、高崎在住のニュージーランドの人に教えてもらったメニューで、季節のフルーツ7種（スイカ・メロン・キウイ・オレンジ・ぶどう・バナナ・パイナップル（缶））とマシュマロを盛り合わせたものです。コミュニケーション支援部会の群馬地域スタッフ7人が、材料の買出しから、販売までしました。とても好評で、2時間半で用意した150食を完売しました。

新町地域



11月2日、新町いちょう並木通りで開催された「しんまち大道芸まつり」で、タイカレーとチャイを提供しました。コミュニケーション支援部会の新町地域スタッフを中心に日本語教室（新町東コミュニティーセンター）に通っている外国人を加え十数人で、前日からカレーを用意しました。積極的に協会活動のアピールができました。

倉渕地域



11月23日、倉渕支所・公民館で開催された「くらぶちやまなみ祭」で、ブラジルバーベキュー・シュハスコ（牛肉・ソーセージ）を提供しました。本年が日本人ブラジル移民100周年にあたることから、ブラジル料理のブースを設けました。用意したシュハスコはお祭りの終了時間前に売り切れてしまう人気でした。

榛名地域



11月30日、榛名支所と周辺の商店街を会場として開催された「はるな宮本町イルミネーションパザール」で、ブラジルバーベキュー・シュハスコ（牛肉・ソーセージ）を提供しました。強風のため、熱気球の搭乗体験は中止になりましたが音楽演奏などが行われとても賑やかでした。5時になると3万球のイルミネーションが点灯し、街を彩りました。

音楽は世界の共通語

NPO法人高崎第九合唱団
団長 渡辺 義之 さん

NPO法人高崎第九合唱団は、平成20年度群馬県国際交流賞に選ばれ、10月20日に群馬県庁正庁の間での受賞式に参列しました。この受賞は35年間にわたるベートーベン作曲第九交響曲の演奏活動と20年間に6回行った海外公演の実施活動が認められたことと思います。この間、公私共に寄せられたご声援、お力添えに心から感謝するとともに、今後とも全力で合唱活動を通じて国際交流に努めたいと意を新たにしています。当団が開催した海外演奏会は次の通り

です。
第1回1989年9月29日 ドイツ連邦共和国ハイデルベルグ市聖霊教会
第2回1995年9月25日 チェコ共和国ブルゼニ市オペラハウス
第3回1998年10月18日 ドイツ連邦共和国ニュルンベルグ市グスタフ・アドルフ記念教会
第4回2002年10月6日 ポーランド共和国ザブジェ市聖アン・ローマ・カトリック教会
第5回2006年6月2日 リトアニア共和国ヴィリニユス市コングレスホール
第6回2007年8月25日 中華人民共和国承德市第一中学校校文体館
なお、2009年10月22日にスロベニア共和国の首都リュブリャナ市に



第1回海外公演の際
ドイツ・ハイデルベルグ市長と歓談する筆者(中央)

において第6回ヨーロッパ公演を行うことが決定しました。本年12月より参加団員の募集を行います。来年1月18日に発声式を行い、2009年10月まで練習を重ねて、国際交流に役立つよい演奏会にしたいと考えています。大勢の参加、ご協力をお願いします。

Information

キッズクラブ

期間：来年2月7日～3月7日の土曜日(全5回) 時間：午前10時～11時30分 会場：群馬福祉会館 講師：クリス・オーエンズさん(アメリカ出身) 対象：保育園、幼稚園の年長(5～6歳)～小学3年生 定員：先着20人(1クラス) 費用：会員千円、一般2千円(教材費・保険料込) 内容：簡単な英語の歌やダンス、ゲーム、絵本の読み聞かせなどを予定 申し込み：はがきに講座名、子どもと保護者の氏名、学年、住所、電話番号を明記し、群馬支所地域振興課へ(〒370-3592高崎市足門町1658) 問い合わせ：事務局または群馬支所地域振興課(027-373-1212)

春節餃子パーティー

日時：来年2月1日(日)午前10時

～午後3時 場所：並榎中学校調理室 定員：先着40人 費用：千円(小学生以上参加可) 内容：春節によく食べる料理を作って食べ、中国・台湾の人とゲームやクイズなどをする 申し込み：電話で協会事務局へ

海外料理教室

バレンタインデーにカナダ料理
日時：来年2月14日(土)午前10時～午後2時 場所：中央公民館 定員：先着25人 費用：千円 メニュー：ジャガイモのチーズ焼き、ミートパイ、シリアルで作るホットケーキ 申し込み：会員優先2月9日(月)午前10時から電話で事務局へ
アフリカの味、ガーナ料理
日時：来年3月15日(日)午前10時～午後2時 場所：中央公民館 定員：先着25人 費用：千円 メニ

ュー：鶏肉のシチューなど 申し込み：会員優先3月9日(月)午前10時から電話で事務局へ

世界のエンターテイメント

日時：来年2月15日(日)午後1時開場・1時30分開演・午後4時40分終了(予定) 場所：中央公民館集会ホール 定員：先着300人 費用：無料 申し込み：電話で事務局へ 詳細は後日お知らせします

わかさぎ釣りツアー

日時：来年2月22日(日) 場所：榛名湖・伊香保温泉 定員：先着45人(大型バス1台) 内容：チーム戦で釣果を競い交流、伊香保温泉街の散策(希望者は温泉に入る) 詳細はメンバーズサロン2月号に掲載します

編集後記

「師走」この言葉からは何となく雑踏と、せかされるものを連想する。高崎駅からシンフォニーロードにかけては、昼は「高崎の第九」の赤い旗が、夜は暗とネオンやイルミネーションの交響曲である。毎年想うことであるが「ゆったり」とした気持ちで新しい年を、迎えたい。除夜零時 過ぎて心が華やぐも(誓子) M.Ki.

新規募集と更新手続き

新規会員を募集中です。国際交流に興味のある人にご紹介ください。

既会員で本年度の会費納入がまだの人は、手続きをお願いします。

お問い合わせは右の市役所内国際交流協会事務局へ。

会報 *Touching the World*

発行 高崎市国際交流協会(T.I.R.S.)
〒370-8501 高崎市高松町35-1
高崎市役所 秘書課内
TEL 027(321)1201
FAX 027(330)1819
E-Mail: intl@city.takasaki.gunma.jp
HP: http://www.glocalfive.net/tirs
発行日 2008年12月18日